



平成 24 年 度

兵庫県公立高等学校学力検査問題

国 語

注 意

- 1 「開始」の合図があるまで開いてはいけません。
- 2 「開始」の合図で、1ページから6ページまで問題が印刷されていることを確かめなさい。
- 3 解答用紙の右上の欄に受検番号を書きなさい。
- 4 解答用紙の  の得点欄には、何も書いてはいけません。
- 5 答えは、すべて解答用紙の指定された解答欄に書きなさい。
- 6 問題は四題で、6ページまであります。
 - (1) 一、二、三は、共通問題です。全員が解答しなさい。
 - (2) 四は、選択問題です。A、Bのうちいずれかを選んで、解答しなさい。
その際、選択した問題の解答欄の上にある  の中に、必ず○印を付けなさい。
- 7 「終了」の合図で、すぐ鉛筆を置きなさい。
- 8 解答用紙は、机の上に置いて、退室しなさい。

— 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

価値観の相対化した現代社会においても、「一般的に認められるような価値」がまったくないわけではないし、価値観や信条の異なる人々が共通して「価値がある」と認めるような対象や行為はやはり存在する。それは「客観的に正しい価値」とは言えないが、多様な立場の人々が共通して認める価値であり、そこに私たちは価値の普遍性を確信することができる。そして、このような意味での「価値の普遍性」を「一般的他者の視点」から導き出すことは、決して不可能な試みとは言えない。

では、価値観や信条、関心の異なる人々が共通して「価値がある」と認めるような対象や行為とは、一体どのようなものであろうか？

たとえば、関心や価値観が異なる人間であっても、一生懸命にがんばってその道に精進していれば、その「努力」は承認してくれるだろう。陸上部で毎日練習を積み重ねている人間に対しては、誰もが「陸上に関心はないが、あの練習量は大したものだ」と思うだろうし、仕事や勉強に励んでいる人間に対しては、どのような価値観や立場の人であっても、普通はその努力を認めるはずである。それは、本人が目指していた表現や結果への評価ではないが、その人自身のあり方に対する承認という意味で、自己価値の確信に深く関わっている。

実際、何らかの努力をしている多くの人が、価値観や感性の異なる人々でも、自分の努力は認めてくれるだろう、と心のどこかで思っている。私たちは多くの場面で「一般的他者の視点」を想定し、一般的承認の可能性を暗々裏に確信しつつ行動しているのである。「努力」の他にも、「やさしさ」や「勇氣」「忍耐力」「ユーモア」など、関心や価値観が異なっているも共通して認められる可能性を持つ価値は存在する。そして私たちはこのような価値に関わる行為をしているとき、普通は誰でもこの「努力」（あるいは「やさしさ」「勇氣」「忍耐力」「ユーモア」等）を認めてくれるだろう、それだけの価値はあるはずだ、としばしば心のどこかで思っている。

る。それは自覚的ではないとしても、「一般的他者の視点」から多様な人々の承認を想定しているのである。

ところで、こうした関心や価値観が異なる人間の間でも承認され得る価値のなかで、ひときわ重要な意味をもつ価値がある。他人を傷つけず、困っていれば助ける、といった道徳的な行為に対する価値がそれである。

たとえば、道端に倒れて苦しんでいる人を助けることは、誰に聞いてもほぼ例外なく、価値ある行為だと認めるはずだ。病人やけが人、老人をいたわり、幼い子どもを危険から守り、災難に遭った人を手助けすること。他人を苦しめたり、差別して貶めたりしないこと。こうした道徳的な行為に価値を認めない人間は、よほど偏った思考の持主だけだろう。

このような価値には、関心や価値観の違いを超えて、共通了解される可能性がある。なぜなら、これらの行為は人間なら誰でも「もし自分が同じ立場であったらしてほしい行為」だからである。

生命の危険に晒されたり、身体に危害を加えられたり、軽蔑されたりすることは、どのような人間であっても耐え難い苦痛であり、誰かに助けてほしいと思うのが普通だ。誰も苦しいところを助けられた経験があれば、同じ状況の他者に遭遇したとき、その苦しみも助けられた場合のよるこびも、容易に想像できる。そして「一般的他者の視点」から、その行為が「正しい」「すばらしい」と多くの人が共通して認め得るか否かを吟味し、価値の普遍性を確信することができる。

（山竹伸二『認められたい』の正体）

問一 傍線部②・⑤・⑦・⑧の読み方を平仮名で書きなさい。

問二 二重傍線部ア～エの中で、品詞の異なるものを一つ選んで、その符号を書きなさい。

問三 傍線部①について、筆者は、現代社会において「価値の普遍性を確信することができる」のはどのような価値だと述べているか。その部分分を、本文の最初の段落から二十文字以内で二箇所抜き出し、それぞれ

初めの五字を書きなさい。

問四 傍線部③を具体例を用いて説明した次の文の空欄 a・b に入る適切な

なことを、それぞれ本文中から十字以内で抜き出して書きなさい。

勉強や部活動に励んでいる人に対して、誰もが [a] 可能性がある
ということとは、[b] を承認することにつながるということ。

問五 傍線部④の本文中の意味として適切なものを、次のア～エから一つ
選んで、その符号を書きなさい。

ア 人に隠れて

イ 心の中で

ウ 愚かにも

エ 手がかりもなく

問六 傍線部⑤について、筆者がこのように考える理由を説明した次の文
の空欄 a・b に入る適切なことを、それぞれ本文中から抜き出して
書きなさい。ただし、a は二十字以内、b は十字以内のこととする。

苦しんでいる人を助けることは価値ある行為だと誰もが認めるのは、
その行為が、[a] 行為であり、また、その時の相手の気持ちも
[b] から。

問七 本文における「価値の普遍性」と「一般的他者の視点」について述
べたものとして適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号
を書きなさい。

ア 何が「正しい」か判断することが困難な現代社会において、「一
般的他者の視点」は、「客観的に正しい価値」を導き出し、「価値の
普遍性」を確信するために有効だと考えられる。

イ 「一般的他者の視点」により、自分の行為を他者がどう思うかを
考え、そこに「価値の普遍性」があることが確信できれば、その行
為の正当性をすべての人に認めさせることができる。

ウ 勇気ある行為や道徳的な行為をする時は、その行為に価値がある
ことを多くの人に承認され得ると想定しているという点で、「一般
的他者の視点」から「価値の普遍性」を確信しているといえる。

エ 何かを成し遂げることは、誰が見てもすばらしく、「価値の普遍
性」がきわめて高いので、「一般的他者の視点」を想定しなくても
それを行う自分の価値を確信することができる。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

三郷心は工業高校の一年生で、コンピューター研究部(コン研)に所属する女子生徒である。ある日、ものづくり研究部(もの研)の顧問に頼まれ、文化祭の販売品の製作を手伝うことになった。製作にはものづくり研究部一年生の吉田と亀井、二年生の原口、技術指導をする熟練工の小松さんがあっていた。ひと月後、文化祭を翌日に控え、完成した販売品の大きさのちがいが気になった心が、そのことを原口に指摘する場面である。

「すごくちがいますよね」

「そりゃ、つくった人間がちがうけん」

「そんなのおかしいです。精密な工業製品にそんなことがあっていいんでしょうか」

「実際にあるんやけん、しょうがないやろ」

詰め寄る心のイキオイ^①をかわすような軽さで、原口は答えた。その雑な言い方が、かちんと神経に引っかかった。

「じゃあきつと公差が大きすぎるんです。こんな範囲の広い公差なら意味ない。同じ旋盤でもマシニングセンタでつくったらこんなことにはなりませんよ」

心はそばにあった電話ボックスふたつ分ほどの大きさの機械を指差した。

最初から疑問だったのだ。マシニングセンタは、コンピューター制御の切削機械だ。コンピューターにデータを入力して作動させると、自動的に同じ形に切削していく。今回つくったペーパーウェイトだって、もつと大量生産に適したデザインにして、マシニングセンタにかければ時間もロウリ^②も半分以下ですんだらう。どうしてそれをしないで、少人数でてんでこ舞いして助っ人^③まで頼んだのか、心にはさっぱり理解ができない。

「そんなことしたら、(もの研)の意味がないやろ」
あきれたような原口の声があった。

「あのね。(もの研)は、(コン研)とちがってコンピューター任せの部活やないと。人の技術を追求するための部活なんっちゃ」

「コンピューター任せて……」

悪意の混じったような発言に、心はむっと顔を上げた。

「削り方、磨き方にだってそれぞれの個性が出るやろう」

「だからそれでは工業製品の意味がないです」

声を荒らげかけた時、気の抜けるような声があった。

「おー諸君、今日はもうよかったんやったかね」

小松さんだ。

「うん。あとは明日のジュンビ^④だけやけん、おれらでやれるわ。小松さん、

長いことありがと。小松さんがおってくれたおかげでほんとたすかった」

原口はマンメン^⑤の笑みを小松さんに向けて言った。心に対するあてこすりみたいな笑顔だ。

嫌味全開。ほんとに感じが悪い。

心は舌打ちをかみ殺したが、

「いやいや、なんの」

原口に愛想よく言われて、小松さんは上機嫌で作品を手に取り始める。

「お、これは原口、これは亀ちゃんやな。それからこれはわしや。うーんいい仕事してますなあ。あと、こっちのまだまだは吉田」

自分の子を眺めるような目つきだ。

心はぴくりと眉を寄せた。

製作者がわかるのか。

確かに自分の目から見ても、ひとつひとつちがうのはわかったから、小松さんくらいの職人なら製作者もわかるものかもしれない。けれどどうも簡単に言いあてられるものだろうか。

「そんなことわかるんですか」

「そりゃ、見りゃわかるわ」

不思議に思ってきたと、小松さんはこともなげにそう言い、製作者の選別を続けた。

「亀ちゃん、原口、原口、わし、わし、吉田……」

鼻歌でも歌うようにより分ける。

半 A 半 B で顔をしかめていたが、やがて心は小松さんの手元に注視した。よく見ると、確かに製品にはそれぞれ特徴があるような気がしてくる。同じ製作図、同じ材料、そして同じ機械を使ったはずの製品なのに。

よりわけていた小松さんの節くれだった手がふと止まった。

「あ、それからこれはあんたやね。みさと選手。なかなかいいね。はい、敢闘賞」

小松さんは、サイコロ型のペーパーウェイトをひとつ持ち上げると、心につき出した。思わず受け取る。
⑦ ずしんとくる。

確かに自分がつくったものだど心にもわかった。それも初めてつくったものだ。あの時の感覚がよみがえった。心細さや、製作中の胸の高鳴りや、できあがった時の充足感が。

⑧ 「いいんですか」

つい、口が勝手に答えてしまっ、心はうろたえた。けれどどうしてか、手放したくはない。

「よかばい、わしが買うちやる」

小松さんは胸をどんとたたいた。

鏡のように輝く鉄の表面を、心はそっとなでてみた。

(まはら三桃『鉄のしぶきがはねる』)

(注) 公差——機械加工で、合格とされる最大寸法と最小寸法の差。

「部活やないと」——ここでは「部活ではないぞ」という意味。

問一 傍線部①・②・④・⑤の片仮名を漢字に改めなさい。

問二 空欄A・Bに漢字を書き、適切な四字熟語を完成させなさい。

問三 傍線部③における原口の考えを説明した次の文の空欄a・bに入る適切なことばを、それぞれ本文中から十字以内で抜き出して書きなさい。

マシンングセンタを使って、 a 大量生産することよりも、

b ことを目指しているという考え。

問四 傍線部⑥の小松さんの行動について説明した次の文の空欄a・bに入る適切なことばを、それぞれ本文中から五字で抜き出して書きなさい。

心は、製品にはそれぞれ a ことに気付きはじめているが、それは製作者の b ということだと、小松さんは心にさりげなく示そうとしている。

問五 傍線部⑦の表現について述べた次の文の空欄a・bに入る適切なことばを、それぞれ書きなさい。ただし、aは本文中のことばを用いた十字以上十五字以内のことばを、bはあとのア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

自分で初めてつくった作品の重さに、それをつくった過程で感じた a が思い出されて心の胸に迫ってくることを表しており、心が b ことを強く印象づけている。

ア 劣等感にさいなまれている イ 自信を深めている
ウ 考え方を揺さぶられている エ 好奇心を刺激されている
問六 傍線部⑧における心の心情の説明として適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 原口たちの前で自分の作品をほめられたことに困惑しながらも、たとえお世辞でも小松さんに認められたことがうれしくて、いつまでもこの作品を手元に置きたいと思っている。

イ 自分の作品だけが小松さんに認められ、何となく居心地が悪く素直に喜べなかったが、これまでの自分の考え方が間違っていなかったことを示したこの作品に誇りを感じている。

ウ 自分が一生懸命つくった作品をもらえるうれしさと遠慮する気持ちが一瞬のためらいを生んだが、この作品をどうしても誰かに見せたいという思いが抑えきれなくなっている。

エ 自らの口から思わず出たことばによって、自分の作品がほしいと思うようになったことに気付いてとまどいながらも、いつの間にか自分にとって特別なものになったこの作品に愛着を覚えている。

三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(ある山寺の僧四人が) (無言でいる修行) (出入りさせた)

四人座を並べて、七日の無言を始む。承仕一人を道場に出入しける。

(さて、時間もたち)

ここに、更たけ夜ふけて、灯の消えんとしけるを、下座の僧、承仕、

(大きくしなさい)

火かきあげよと言ふを^①聞きて、次の座の僧、無言の道場にして、もの申す

(よいわけはありません)

様候はずと言ふ。第三座の僧、二人とももの言ふこと不思議におぼえ

(心を乱しなざるな)

て、狂はしたうなと言ふ。上座の老僧、面々に様はか^②れども、もの言

(驚きあきれて嘆かわしく)

ふこと、あさましくもどかしくおぼえて、法師ばかりぞものは申さぬと言

ひて、うちうなづきける。賢げにて殊にをこがましくぞおぼゆる。

(「沙石集」)

(注) 承仕——雑用に従事する僧。

問一 傍線部①は誰の動作か。適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 下座の僧 イ 次の座の僧 ウ 第三座の僧 エ 承仕

問二 傍線部②を現代仮名遣いに改めて、すべて平仮名で書きなさい。

問三 次の会話は、本文について太郎さんと菜美さんが話し合ったものである。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

太郎 どうして下座の僧は承仕に声をかけてしまったのだろう。

菜美 それはね、道場の **a** が消えてしまいそうになったからよ。

太郎 では、なぜ隣の二人が次々にことばを口にしてしまったのかな。

菜美 道場では **b** でいなければならないというきまりを破ったこ

とを注意しようとしたのね。

太郎 そうか、するときまりを守ったのは、上座の老僧だけということになるね。

菜美 どうしてそう思うの？

太郎 本文に **c** と書いてあるからだよ。

菜美 でもね、よく読めば、上座の老僧も **d** ということではないのかしら。

太郎 そうか。なんだ、最後は四人ともきまりを破ってしまったのか。

菜美 この話が面白いのは、本文にあるように、**e** 様子が特にみっともなく思われるところね。

(1) 空欄 a、c に入る適切なことばを、それぞれ本文中から抜き出して書きなさい。ただし、a と b は二字以内、c は十五字以内のことばとする。

(2) 空欄 d に入る適切なことばを、五字以内で書きなさい。

(3) 空欄 e に入る適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア せっかくよいことをしようとした「下座の僧」が、最後は他の三人に注意されがっかりしている

イ 自分は正しいことをしたと思っている「次の座の僧」が、「下座の僧」と一緒に「第三座の僧」にしかられた

ウ いかにも立派そうな「上座の老僧」が、他人の失敗はわかっても自分のあやまちに気付いていない

エ 道場で修行をしている三人の僧が、わざときまりを破って「上座の老僧」にあきれられている

四 (選択問題) A、Bのうちいずれかを選んで、解答しなさい。

A 次の詩と鑑賞文を読んで、あとの問いに答えなさい。

雨あがり
まっ先に よろこぶのは a
三島慶子
よろこびは
樹々にとどき
土にとどき
とび出したバツタのみどり色にとどく
よろこびは
つたわり つながって
風といっしょに空へのぼり
虹になって
街を
とびこえ――

(鑑賞文) この詩は、雨あが

りの情景を描いたものである。

雨があがって晴れ間がのぞ

き始め、降り注ぐ b は、

地上に届く。作者の視線は、

① 見逃してしまいそうな何げ

ない一瞬の情景をみごとに

とらえていて、雨あがりの大

地の鮮やかさを想像させる。

第三連では、「よろこび」は

連鎖し上昇しながら、やがて

c が「よろこび」の象

徴として現れる。② 詩全体から

感じられる軽快なリズム感と、

最終行の「とびこえ――」の表現が響きあい、遠くの街に「よろこび」が

広がっていく様子を印象的に描いている。

問一 空欄 a・c に入る適切なことばを、それぞれ書きなさい。ただし、

a と c は詩の中から抜き出した漢字一字のことばとし、b は自分で考

えた漢字一字のことばとする。

問二 傍線部①の内容を表現している部分を、詩の中から一行で抜き出

し、最初の五字を書きなさい。

問三 傍線部②は、詩のどのような特徴によるものか。適切なものを、次

のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 動詞の連用形の多用

イ 効果的な擬態語の使用

ウ 五音と七音のことばの調子

エ 語順を逆にした表現

B 次の漢文と解説文を読んで、あとの問いに答えなさい。

人の短を道ふこと無かれ、己の長を説くこと無かれ。

人に施しては慎んで念ふこと勿かれ、 a 慎んで忘ること勿かれ。

<p>① 無^{カレ}道^{フコト}人^ノ之^ヲ短^ヲ無^{カレ}説^{クコト}己^ノ之^ヲ長^ヲ</p> <p>施^{シテ}人^ニ慎^{シテ}勿^{カレ}念^{フコト}受^{ケテ}施^{シテ}慎^{シテ}勿^{カレ}忘^{ルコト}</p> <p>(崔瑗「座右銘」)</p>	<p>②</p>
---	----------

(解説文) この文は、崔瑗という人物が、自分の身近な所(座右)に置いて戒めとするために書いたものである。他人の欠点を言わないこと。

b を口にしなさい。他人に恩恵を与えた時は、決して心に留めて

おかないこと。他人から恩恵を受けた時は、くれぐれも感謝の気持ちを

c こと。と四つの戒めを示している。

問一 空欄 a に入るように、傍線部②を書き下し文に直しなさい。

問二 傍線部③に当たることばを、漢文から三字で抜き出して書きなさい。

問三 空欄 b・c に入る適切なことばを、それぞれ五字以内で書きなさい。

問四 傍線部①について、そのように心がけておくのがよい理由として適

切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 面倒な人間関係から離れ、悠然と生活することが大事だから。

イ 相手から思わぬ恩返しがあった方が喜びは大きいから。

ウ 相手に、再び助けてもらえると期待させてはいけなから。

エ 人に対しておごらず、謙虚な気持ちで接することができるから。

得点

() 点 一														
問七 点	問六 点		問五 点	問四 点		問三 点		問二 点		問一 点				
	b	a			b	a			B	A	⑤	④	②	①
														(み)

() 点 二														
問六 点	問五 点		問四 点		問三 点		問二 点		問一 点					
	b	a	b	a	b	a			B	A	⑤	④	②	①
														(い)

() 点 三							
問三 点					問二 点	問一 点	
(3)	(2)	(1)					
		c	b	a			

四 (選択問題) A、Bのうち、選択した問題の解答欄の上にある
 の中に、必ず○印を付けなさい。

() 点 A			
問二 点	問二 点	問一 点	
	c	b	a

() 点 B			
問四 点	問三 点	問二 点	問一 点
	c	b	